

超小型カメラの開発が進んだことを受け、盗撮の被害が広がっている。仕掛けも巧妙で、本人が知らないうちに、あられもない姿がインターネット上にさらされる脅威が現実になっていく。これに対する自己防衛のニーズが高まり、引越越し会社が隠しカメラの探查サービスに乗り出すなど、暮らしの安全・安心にかかわる新たなビジネスも出てきた。

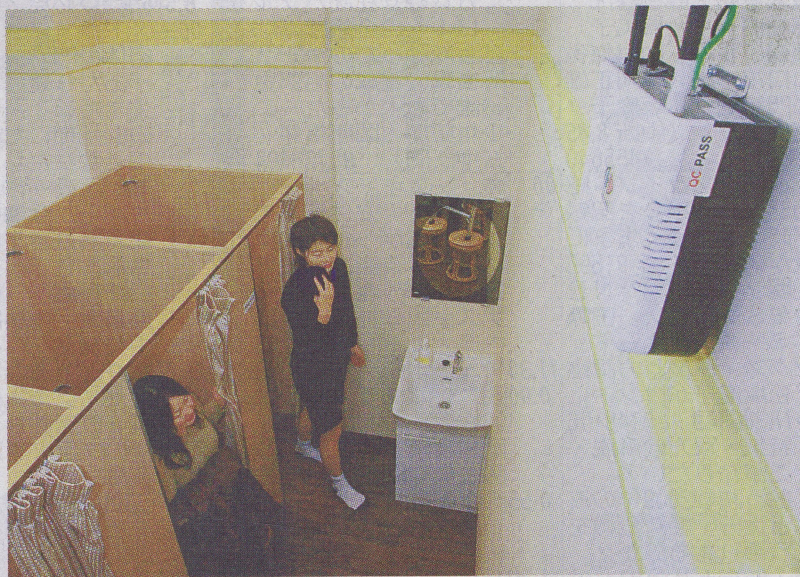
秋田県に住む女性会社員は、友人の男性から自宅内を見ているかのような電子メールが送られるようになり、NPO法人・日本情報安全管理協会(東京)が認定する「情報安全管理士」に調査を依頼した。管理士は3時間がかりで書類入れに隠された7センチ大のカメラを発見。女性のパソコンに接続してあり、女性はショックで泣き崩れた。

盗撮・盗聴器探查を専門とする情報安全管理士が2

自宅、更衣室…広がる脅威

盗撮カメラ探します

07年に手がけた盗撮器
 探查は819件で、13個の
 盗撮器が見つかった。
 警視庁によると、東京都



盗撮用の無線カメラの電波を感知する装置が設置されたアクトス芦屋リゾート店の女性用ロッカールーム(兵庫県芦屋市で)＝川崎公太撮影

引越し社 ビジネス参入も

内の07年度の盗撮事件の検挙件数は193件で、ここ数年は年に200件前後で推移している。大阪府警管内の検挙数は03年に43件で、04年以降は年70〜90件だという。ただ、全国で年に40万個もの盗撮・盗聴器が市販され、検挙されたのは氷山の一角とみられる。これに対し、宅配大手ヤマトホールディングスの引越し子会社は、09年1月から家庭の盗撮器探查ビジネスに参入する。宅配された探查装置を利用者が自室で稼働させると、監視センサーが電波状態を点検する仕組みだ。1部屋当たり1万2600円。「探查業者でも部屋に入れたくない一人暮らしの女性が多く、需

要は多い」とみる。

全国49店のスポーツクラブを運営するアクトス(岐阜県多治見市)は、全店の女性ロッカールームに盗撮映像の電波を検知する装置を備え付けた。芦屋リゾート店(兵庫県芦屋市)は「設置してあることで安心してもらえる」という。

ITシステム開発、FORS(東京)の製品で、大型商業施設やコンビニエンスストアの更衣室、トイレへの採用が相次ぎ、08年8月〜09年7月期の納入実績は前期の10倍、1000台に達する見込みだ。

全国盗撮犯罪防止ネットワーク(和歌山市)代表の平松直哉さん(42)は「カメラは知人からの贈り物のほか、入居前のマンションに仕掛けられることも多い。有線式は目で探すしかなく、自分でも天井や換気口を調べるなど日頃から注意を」と呼びかける。

遺棄 妊婦 男、徒歩で逃走か 兵庫県警 自宅などを検証

神戸市西区の運送会社倉庫で、クーラーボックスに入った妊婦の遺体が見つかった事件で、死体遺棄容疑で逮捕状が出された同社の男性社員(39)が、徒歩で逃げた可能性が高いことが兵庫県警の調べでわかった。男性社員は25日に事情聴取

を受けた後、会社に戻って姿を消した。社有車を使った形跡はなく、マイカーも自宅にあったことから、県警は電車などで逃げているとみて全国に指名手配した。

捜査関係者によると、男性社員は、同区内の自宅で